

[分 類] 普及技術

[成果名] スイートコーン畑の一年生雑草防除にプリグロックスL液剤は有効である。

[要 約] スイートコーン畑において、一年生雑草防除に、プリグロックスL液剤を、10a 当たり 600～1000ml を茎葉散布すると除草効果が高い。

[担 当] 野菜花き試験場野菜部

[部 会] 野菜花き部会

1 背景・ねらい

スイートコーン栽培における雑草防除は、雑草発生前の土壌処理剤の利用が多く、雑草生育期の防除剤は少ない。プリグロックスL液剤は「補完農薬」として防除基準に記載されているが、平成 19～20 年に試験を行い、その効果が確認できたので、今回普及技術とした。

2 成果の内容・特徴

(1) スイートコーン生育期における畝間一年生雑草茎葉処理除草剤として、プリグロックスL液剤を 10a 当たり 600～1000ml を水 100～150L にて希釈し、雑草の茎葉全体にかかるように均一に散布する。

農薬登録内容

プリグロックスL液剤

[一般名及び成分含量] ジクワットジプロモト[®] 7%、パラコートジクロリド[®] 5%

[毒性] 人畜毒性：毒物 [魚毒性] A類

[対象作物に対する適用登録状況（平成 20 年 9 月 16 日現在 JPP ネット確認）]

作物名	適用雑草名	使用時期 使用方法	10a 当たり 使用量 (希釈水量)	本剤の 使用回数	農薬の 総使用回数 ジクワットを含む	農薬の 総使用回数 パラコートを 含む
未成熟とうもろこし	一年生雑草	畦間処理 雑草生育期 (草丈 30 cm 以下) 但し、収穫 3 日前まで 雑草茎葉散布	600～ 1000ml (100～150L)	5 回	5 回	5 回

3 利用上の留意点

- (1) 散布水量及び使用量は、雑草の大きさや密度に応じて登録の範囲内で適宜増減する。
- (2) 展着剤を加用する場合は、非イオン系展着剤を使用する。
- (3) スイートコーンや周囲の作物に薬液がかからないよう、飛散防止カバー付ノズルを用い、なるべく低圧で風向きに注意して散布する。

4 対象範囲

県下全域

5 具体的データ

(1) 除草効果

全ての草種に対して高い除草効果が認められた（表1、表2）。

平成20年は雑草の繁茂量が多く、やや残草が認められたが、総雑草量の10%以下であり、実用的に問題ないと思われた。

(2) 作物の生育及び収量

両試験とも薬害は認められず、生育及び収量に影響はなかった（表3、表4）。

表1 プリグロックスL液剤の除草効果（平成19年、野菜花き試験場）

薬剤名	使用量 (/10a)	イネ科雑草			非イネ科雑草			総計 発生数, 重量
		メヒシバ	エノコログサ	イヌビエ	スベリヒユ	シロザ	ハダギギク	
		発生数, 重量	発生数, 重量	発生数, 重量	発生数, 重量	発生数, 重量	発生数, 重量	
無処理区		26本, 74.0g	20本, 167.6g	14本, 378.6g	58本, 140.0g	12本, 78.4g	12本, 45.0g	164本, 936.6g
プリグロックス	600mL	0	0	0	0	0	0	0
L液剤	1000mL	0	0	0	0	0	0	0

注) 除草剤処理区は指数(0:無、1:無処理区の0~10%、2:無処理区の11~20%、3:無処理区の21~40%、4:無処理区の41~60%、5:無処理区の61%以上)

耕種概要および試験方法

試験場所: 場内(350m) 土壌種類: 灰色低地土 供試品種: ピーターコーン

作型: 露地マルチ栽培 区制: 1区12㎡ 2反復 定植日: 平成19年5月21日

薬剤散布: 平成19年6月27日に、散布水量150L/10aで茎葉散布処理した。

調査日: 平成19年7月5日(処理9日後)

表2 プリグロックスL液剤の除草効果（平成20年、野菜花き試験場）

薬剤名	使用量 (/10a)	イネ科雑草			非イネ科雑草			総計
		メヒシバ	エノコログサ	イヌビエ	スベリヒユ	シロザ	ハダカデク	
		発生数, 重量	発生数, 重量	発生数, 重量	発生数, 重量	発生数, 重量	発生数, 重量	発生数, 重量
無処理区		88本, 212.2g	70本, 344.2g	116本, 632.2g	292本, 947.0g	68本, 333.8g	22本, 160.0g	656本, 2629.4g
プリグロックス L液剤	600mL	1	0	1	0	1	0	1
	1000mL	0	0	0	0	1	0	0

注) 除草剤処理区は指数(0:無、1:無処理区の0~10%、2:無処理区の11~20%、3:無処理区の21~40%、4:無処理区の41~60%、5:無処理区の61%以上)

耕種概要および試験方法

試験場所: 場内(350m) 土壌種類: 灰色低地土 供試品種: ヒーターコーン

作型: 露地マルチ栽培 区制: 1区10m² 2反復 定植日: 平成20年5月27日

薬剤散布: 平成20年6月17日に散布水量150L/10aで茎葉散布処理した。

調査日: 平成20年6月27日(処理10日後)

表3 プリグロックスL液剤の生育・収量に及ぼす影響（平成19年、野菜花き試験場）

薬剤名	使用量 (/10a)	調査事項			収量	
		稈長cm	雌穂高cm	雌穂重g	kg/10a	%
無処理区		220.2	62.3	383.2	1419	100
プリグロックス L液剤	600mL	225.9	60.3	386.5	1431	101
	1000mL	221.7	59.0	389.4	1442	102

注) 生育調査・収量調査: 平成19年8月5日

表4 プリグロックスL液剤の生育・収量に及ぼす影響（平成20年、野菜花き試験場）

薬剤名	使用量 (/10a)	調査事項			収量	
		稈長cm	雌穂高cm	雌穂重g	kg/10a	%
無処理区		200.4	49.9	400.8	1619	100
プリグロックスL液剤	600mL	208.5	52.5	411.6	1663	103
	1000mL	211.6	53.7	412.7	1667	103

注) 生育調査・収量調査: 平成20年7月28日

6 その他特記事項

[公開] 制限なし

[課題名、研究期間、予算区分]

野菜・花き除草剤、植物調整剤の効果試験、平成19年~20年度、民間受託